

からぼり川

がたろう通信

小林さん追悼号

2023年9月9日

発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ: <http://www.karaborigawa2.org/>

ブログ: <http://karabori.exblog.jp/>

発行責任者 : 垂水荘司 TEL 090-8050-5662 東村山市青葉町 2-24-59

ホームページ



ブログ



初代理事長 小林寛治氏

追悼号



第4回内野吉之助みどりの基金 植樹祭

2007年1月28日 (二列め真ん中が小林さん)

1. はじめに

空堀川に清流を取り戻す会は、当会創設者である小林寛治さんが療養されておられましたが残念ながらお亡くなりになり、本冊子を発行することといたしました。

2. 小林寛治さんをしのんで

偉大な先輩を偲んで

理事長 垂水 荘司

2008年会員募集の文言で「私たちは空堀川の自然再生と、河川本来の景観を復元することによって街づくりを目指しています。NPO活動を通して第二の生き方をしてみようと考えている方お問い合わせ下さい。」市民団体が自立して目指す活動を行うにはどうしても法人格取得が必要と感じ、会の設立2年後平成10年2月1日会員の皆さんの同意のもと「特定非営利活動法人・空堀川に清流を取り戻す会」を設立されました。小林寛治様は初代理事長として情熱を傾けられ、設立後会の骨格を築かれ2009(平成21)年退任されました。その後当会の顧問として永きに渡ってご尽力をいただきましたが、体調を崩され5月10日に逝去されました。会員一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。

小林様は川に対する情景は深く、徳島の吉野川第十堰や山梨県釜無川の信玄堤を探索されていきました。

前理事長 友保 邦弘

小林さんは自他ともに認めるスーパーマンで、環境問題に関する知見、企画力、実行力は抜群でした。彼は会の事務所を借りて専従職員を雇うための資金を得るためNPO法人格を取得し、市から広苑整備事業を受託しました。実際に作業をする会員は配分金を受け取り、全額を会に寄付するという考え方でした。しかしその方法は不公平であるという意見が出てきたこと、及び実際の受注額では到底足りないということになり、当初の計画は達成不可能となりました。最終的には配分金、諸経費、税金を差し引いた余剰金を活動費の一部に繰り入れるという結果になって現在に至っています。2代目理事長を受け継いだ者として彼の計画達成に貢献できなかったことを申し訳なく、悔いが残ります。

初代会長 小林寛治さまを偲ぶメッセージ

東村山市長 渡部 尚

空堀川に清流を取り戻す会初代会長の小林寛治様のご逝去をいたみ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。小林様は、空堀川に清流を取り戻すことに情熱を傾けられ、会の設立に尽力されるとともに、設立後は会の先頭に立って、空堀川川まつりや空堀川クリーンアップなどを通じて空堀川の環境を守り育て、東村山市の持続可能なまちづくりに大変ご尽力頂きました。故人のご功績に敬意と感謝を申し上げますとともに、空堀川に清流を取り戻す会の更なるご発展をご祈念いたします。

小林寛治様、お世話様になりました。

川づくり、清瀬の会 宮澤とよ美

小林様の、河川に対する思いは並々ならないものがありました。ですがお人柄は穏やかで、暖かな笑顔に包まれ、お逢いするのが楽しみでした。空堀川に対して流量確保、様々な水源を探しては清瀬や東村山の市議さん同伴で、幾度か本庁に出向きました。また御成橋の左岸高水敷に、小林様の強いご要望でワンドがつけられました。階段設置で小林さまの夢の実現、大勢の方が河川敷に降りて川遊びをする姿が見られます。勿論清瀬の川祭り、環境教育もどれだけご一緒して戴いたことでしょうか。それは、私にとってかけがえのない思い出です。忘れることのできないご指導の数々本当にありがたく、心から感謝いたします。

「信念の人；小林さん」から学んだこと

今泉 安広

浄水橋までの改修工事が完了し、新河川への通水を祝う行事の関連工事を担当しましたが、その頃に小林さんとお会いし、空堀川への思いをじっくり教えていただきました。以来、「川づくり」のための多くの提案をして頂き、その趣旨を活かすために、『川』に関する勉強をするとともに、現場で調査し計画図を作成し、小林さんと打ち合わせを行って来ました。

当時は洪水が多く、あちこちで護岸が損傷していました。そうした箇所では水制などの伝統工法を採用して「川づくり」を試行し、新野口橋下流や丸山橋上流、空堀広場前、浄水橋上流などでは、現在も機能していますが、小林さんの意気込みが宿っているのではないかと思います。さらに、『子どもの水辺』区間では、多くの自然石や木杭を使用した工事を施工して「川の自然」の再生に役立ったのではないかと思います。

小林さんは、人懐っこい性格で笑顔が絶えない人でしたが、同時に信念を持ち続けた人でした。いつの日か空堀川への「希望」の実現する 때가来ると確信しています。

「空堀川に清流を取り戻す会」の設立当初について 渡邊 勇

私が小林寛治さんと出会ったのは、東京都環境学習リーダー講座を受講しているときでした。1996年10月に小林さんを会長とする「空堀川に清流を取り戻す会」が創設され、最初の活動は空堀川のクリーンアップでした(1997年4月27日)。当時、武蔵工大情報環境学科の小堀教授や外国からの留学生、市民など総勢62名が参加し、盛大に実施されました。2回目以降は年に2回、4月と11月に自治会、商工会、行政の参加もあって実施されるようになりました。5月には毎年川祭り、6月には水質調査や生き物調査、川づくりなど多くの事業を展開されました。このような活動に対して1999年6月3日に石原都知事から環境賞を受賞しました。2000年2月にNPO法人に登録し、初代理事長に小林さんが就任しました。また、2006年8月22日にはコカ・コーラ環境教育賞も受賞し、素晴らしい業績を残しました。その後、私は2011年に定年退職を迎えたため、居住地である青梅市での活動を選び、退会させていただきました。小林さんと共に活動した日々は、今でも私にとってかけがえのない思い出です。心よりご冥福お祈りいたします。



石原都知事から東京都環境賞受賞 1999年6月

小林寛治氏追悼

正路 妙子

小林さんは、「空堀川に清流を取り戻す会」の理事長を友保邦弘氏に譲られたあと、東村山市全域の植生を調査することを目的として、「東村山植生研究会」を発足させました。東京農工大学名誉教授・相場芳憲先生を顧問に、八国山から淵の森に至るまでの緑地をフィールドとして調査。2013年に、報告書「野火止用水の保全に係る毎木調査」が、東京都公園協会から優秀賞を授与されたことは、小林さんの大きな功績でした。研究会は、2020年、「東村山の植物」を刊行し、任務を終えました。

4月24日の「あと2、3日は…」が、耳にした最後のお言葉でした。無念の思いを綴られた、御著書「ある医療訴訟」と「虚構」(共に東京図書出版)の警告の言葉を胸に抱きしめながら日々過ごしたいと思います。

空堀川菜の花まつり

有川 栄子

空堀川上流部まで拡幅工事も終わったころ、交流のあった青森県下北半島の横浜町の人から沢山の菜の花の種が送られてきました。(50~60kg?) 小林さんは、早速数人の会員と馬頭橋から下流に向かって、両岸に種を播きました。

空堀川に菜の花を播いて菜種油を絞る構想でもあったのでしょうか。その後、四月はじめに「空堀川菜の花まつり」を催し、横浜町の方々を招いて会員と青葉町商店会の方々と空堀橋(青葉町)際に集まって和やかな交流会をしました。昨今、川に咲く菜の花は横浜町からの種子の子孫ではなく、カラシ菜の類のようです。花の数はとても少なくなりました。

故 小林さんは、環境問題に熱心で、堆肥作り、菜の花播種、川に水を流すこと、ビオトープ等々、夢の多い方でした。天国から空堀川を見守っていらっしやることでしょう。

ご冥福をお祈り申し上げます。

小林寛治氏を偲ぶ

小倉 安洋

氏とのお付き合いは、本会に入会した H12.8.1 以降の約 23 年になります。この間、多くのことを教えて頂きました。特に会の名前にある”清”と”流”についてです。“清”については、流域連絡会での D 類型を見直すべきとの発言でした。その後、私も流連行政委員とも連携し、粘り強く発言し A 類型への格上げを達成したことを思い起こします。もう一つの“流”は、“流量確保”と理解します。現在、河床整備の粘土張り工事が進んでいますが、これも氏が思い描いている流量確保(漏水防止)につながるものと考えます。小林さんの想いを引継ぎ、今こそ、“いい川づくり”、“いい流域づくり”のために頑張ることを誓いたいと思います。 合掌

後半人生に邂逅した故小林寛治様のご薫陶に深謝

岡田 一郎

小林初代理事長の突然の悲報に接して驚愕し、5月15日に急きょ葬儀ミサに参列し謹んでお別れの挨拶をしました。平成18年12月3日(日)に中央公民館で開催の「団塊世代シンポジウム あなたへの応援歌」に参加し、パネリスト5名の一人として登壇した小林様の会設立以来の活動事例と将来像を真摯に語る熱情に深く感動を覚えました。

暮の28日にご自宅を訪問し、改めてNPO法人化に至る活動経緯と広範な環境保護事業分野の課題を伺い、活動趣意に賛同して直に加入を決意しました。平成20年から副理事長の任を担うも、未だ小林様が提唱され続けた本来の「NPO像」には道程遠く慙愧に堪えません。私の後半人生の新たな活動創出に資する啓示を終始和顔愛語で説かれた小林様が安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈り申し上げます。

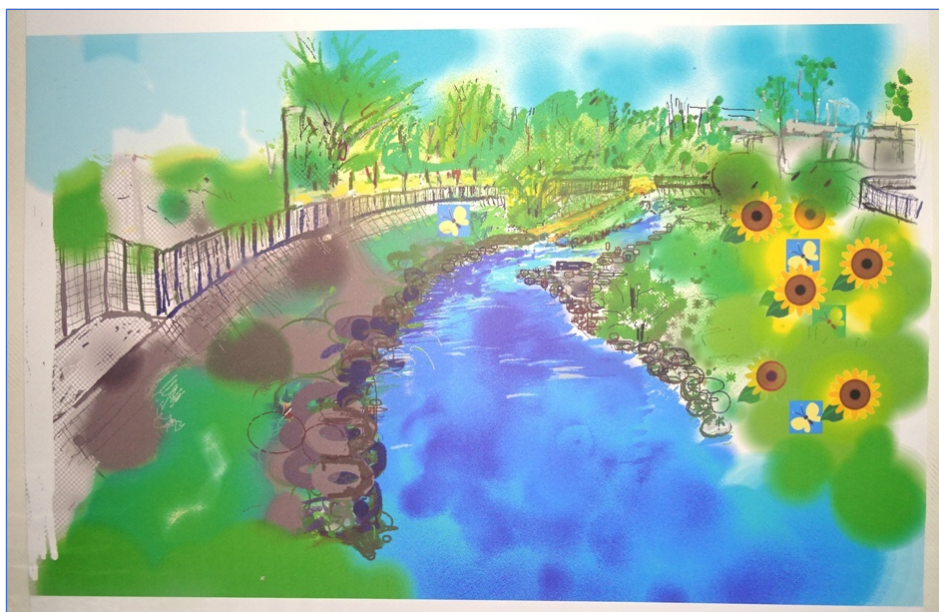
小林さまとの思い出

分部 光春

元当会理事長小林さまと私が、この会で出会えたことを神様に感謝して、安らかなお眠りをお祈り申し上げます。

20数年前の6月1日私と元理事長との初めての出会いは、上橋の下で、バケツと何やら計器を使ってお一人で水質調査中の元理事長の姿を拝見し、近くの会社の店長だった私が興味津々で声を掛けさせて頂いて、手伝いをしたのが始まりです。その後、クリーンアップに社員と参加したり、企業会員に推されたりして、在職中はお付き合いさせて頂きました。が、何が災いしたか、残堀川近くの店に転勤になり、その後の退職を機会に当会に入会したものです。元理事長の思い出はとても300字では語りつくせません。

元理事長小林様、ありがとうございました。 アーメン



小林さんの描かれた理想の空堀川

小林さんの思い出

平田 健一

私が、小林さんにはじめてお目にかかったのは通水まつり（後の川まつり）の会場でした。会の名前をうかがい随分壮大な目標ですねと申し上げた記憶があります。その頃の空堀川はとても魚が住めるような川ではなく、河川改修が終わった直後で草も生えていない状態だったのです。

その後、私の息子が会に入会し、小林さんの薫陶を受けながら小学生むけの「土曜こども講座」を担当していました。

私は、仕事が忙しく会に入会したのは退職してからです。その前に、小林さんから、柳瀬川空堀川流域連絡会や柳瀬川流域水循環マスタープラン市民懇談会というのがあるので土木技術者として参加して欲しいと言われ、参加しておりました。また、東大和市境の調節池を廃止することになり、小林さんと相談しながら私がビオトープ案の図面を書いて東京都に提案しましたが、単に埋め立てられてしまいました。今、それができていればもっと楽しい空堀川になったと思われれます。残念なことでした。小林さんの志をつぎ、空堀川に清流を取り戻す活動をつなげていきたいと思ひます。

小林寛治さん 思い出の写真



空堀川川まつり ボート



第13回空堀川クリーンアップ 2003.4.17



小学校へ出前授業



土曜こども講座



屋外環境授業



植物調査



親子で考えよう地域の環境

編集後記

平田 健一

小林寛治さんは、空堀川に清流を取り戻す会だけでなく、広い範囲で活躍されました。小林さんの略歴を妹さんにおうかがいしましたので、ここにご紹介します。

小林寛治（ひろはる）さん略歴

誕生 1937年11月18日 浦和（現さいたま市）ときわ町
 小学校 戦争による疎開で福島県の小学校に入学
 高等学校 県立浦和商业高校
 就職 日本通運株式会社
 大学 1960年 中央大学商学部夜間部卒業
 結婚 藤子さんと結婚
 会社経営 30年間印刷会社経営
 放送大学修士科目生 地球環境科学、生命環境科学、環境マネジメント、環境工学、都市計画論を学ぶ
 空堀川に清流を取り戻す会設立 1996年10月
 東京都環境局環境リーダー第3期生 1997年
 平成11年度 東京都環境賞 受賞 1999年
 誰も知らない川の歴史と現状 出版 1999年3月1日
 NPO法人空堀川に清流を取り戻す会設立 理事長 2000年2月～2009年4月
 環境カウンセリング市民部門登録 2000年
 東村山市環境基本条例策定協議会委員 2001年
 よみがえれ生き物たち 出版 2001年4月7日
 東村山市環境審議会委員 2002年
 環境再生医 自然環境部門 上級認定 2003年
 環境カウンセラー市民部 登録 各地で環境セミナー、講演活動に従事
 空堀川橋ものがたり 出版 2006年3月3日
 逝去 2023年5月10日
 葬儀 2023年5月15日 まりあ幼稚園チャペルにて

からぼり川 がたろう通信 初代理事長 小林寛治氏 追悼号

2023年9月9日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ: <https://www.karaborigawa2.org/> ブログ: <https://karabori.exblog.jp/>

発行責任者: 垂水荘司 TEL/FAX 042-391-6230 東村山市青葉町 2-24-59

「がたろう」とは、河太郎(カッパ)の事で、当地にあったカッパ伝説にちなんで付けたものです。